

事務事業評価表

○基礎情報

課名		文化生涯学習課		作成責任者		常勤職員		常勤職員以外			総従事者		時間外勤務時間	
施策目標	13	まなびを通して、自らが住むまちについて知り、 愛着を持ち、未来を創造する力をはぐくむ		関山 知子	管理職	左記以外	再任用短時間	臨時職員	非常勤嘱託職員	総人工	総時間	一人あたり月平均		
					1 人	12 人	0 人	3 人	23 人	25.71 人	4,040 時間	28.1 時間		

1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	4次実施計画の現状値	目標値(R2年度)	実績値		
			H28年度	H29年度	H30年度
市民講師登録数	64人	70人	64人	84人	102人
文化芸術事業参加者数	425,489人	550,000人	425,489人	39,536人	310,551人
0	0.0%	0			

(施策のねらい)

1	市民の自主的な文化生涯学習活動の促進
2	生涯学習を担う人材の活用
3	生涯学習拠点の整備とネットワークの構築
4	芸術・文化に触れ合う機会の増加
5	身近なところで触れる芸術活動の展開
6	市史の編さん、情報発信

(評価の見方) S 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める
C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない
Z 未着手事業(計画していたが未実施に終わった) 実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

2 政策的事業の実績(平成30年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)														Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策	従事者数	会計区分	H29予算(円)	H30予算(円)	何・誰に対して どう働きかけた結果 どうなったか(生まれた成果・効果)	事務事業の指標	H30目標値	H30実績値	評価	取組時間	事務改善	休・廃止			
					H29決算(円)	H30決算(円)											
1	市民大楽まなび一な運営事業	1	0.62	一般	0	0	あらゆる世代に向けた講座を開設し、学習機会の提供及び生涯学習支援者の育成を図り、まなびの市民講師の増加に繋がった。	まなびの市民講師の登録者数	70人	102人	S	変動なし					
2	茅ヶ崎ゆかりの人物館運営事業	4	2.45	一般	7,229,000	7,018,000	国木田独歩、九代目市川團十郎をテーマにした企画展を広く市民向けに開催。その中で、特に学校への学習利用を提案した結果、小学校の来館があった。また、若年層に人気のゲームとのコラボレーション企画を実施し、新規来館者増に繋がった。	来館者数	3,880人	3,308人	S	変動なし	●				
					6,796,444	6,565,807											
3	市民文化会館の指定管理に関する事業	4	0.40	一般	126,116,000	172,740,000	10月1日のリニューアルオープン後だけでなく、閉館中やオープン前夜にも多彩なジャンルの公演や事業を実施するなど、計46回の自主事業を実施し、28,753人が参加し、芸術・文化に触れる機会を提供することができた。	市民文化会館における来館者数	250,000人(半年間の開館のため)	240,547人	S	増加					
					117,451,090	172,710,000											
4	茅ヶ崎市民文化会館再整備事業	4	0.75	一般繰越	1,903,264,000	4,064,897,000	市民文化会館の耐震補強・改修工事を行うとともに、什器購入や移転等を行い、予定どおり10月1日にリニューアルオープンすることができた。	耐震補強及び改修工事の進捗	100%	100%	S	増加					
					926,769,633	4,047,041,471											

5	茶室・書院管理運営事業	4	0.28	一般	5,768,000 ----- 5,768,000	5,596,000 ----- 5,596,000	母の日の抹茶体験や七夕茶会、節句にちなんだ茶会など、子どもも参加できる自主事業を9回実施し、子ども連れの家族も多数参加するなど、昨年の98人を大幅に上回る439人が参加した。	茶室・書院利用者数	4,700人	5,352人	S	変動なし		
6	茅ヶ崎市美術館指定管理に関する事業	4	0.32	一般	74,713,000 ----- 74,713,000	73,693,000 ----- 67,240,387	開館20周年を記念し、「版の美」と題した木版画の魅力を紹介する年間テーマのもと、美術館独自の企画を展開した。特に企画展「小原古邨展」は、NHKの「日曜美術館」に取り上げられ大きな反響を呼んだ。また、年間を通じて何度も足を運んでもらうため、版の美シリーズの半券(5枚)を貼付できるコレクションカードを来館者に配布したほか、版画作品を印刷したコースターを市内飲食店で配布するなど、積極的なPRを行った結果、開館以来最多の来館者を記録した。	茅ヶ崎市美術館における来館者数	41,000人	65,802人	S	変動なし		
7	旧南湖院第一病舎の活用に関する事業	4	0.32	一般	12,820,000 ----- 11,329,200	1,482,000 ----- 1,171,603	施設の維持管理のため、機械警備の導入、及び関係者と協力しながら応急修繕を実施した。来園者向けに、簡易パンフレットの配布を開始した。劣化の著しい第一病舎を、将来の大規模改修の時までその歴史的価値を失うことなく維持できるよう都度の個別対応に努めた。	事業の進捗状況	応急修繕	必要最低限の応急修繕	B	変動なし		
8	レインボーフェスティバル事業	1	0.67	一般	1,759,000 ----- 1,759,000	1,759,000 ----- 1,759,000	茅ヶ崎里山公園が広く市民に愛され、親しまれるよう、また、地域の交流と活性化を促進し、もって地域の発展に寄与することを目的として開催した結果、約45,000人の市民が集い、秋の祭りを通じて交流を深めた。	・ステージ出演者数及び多目的広場では模擬店の出展数	ステージ27件 店舗47軒 フリマ55件	ステージ30件 店舗55軒 フリマ54件	S	変動なし		
9	生涯学習機会の提供	2	1.13	一般	7,415,000 ----- 7,188,170	7,477,000 ----- 7,308,016	地域に根ざした学習活動の促進のため、市民主導で事業を展開し、庁内外との連携により市民の多様な学習ニーズに応えることにより、自主企画講座開催数増加に繋がった。	まなびの市民講師による自主企画講座の開催数	80回	91回	S	変動なし		
10	市民文化祭事業	4	0.41	一般	2,043,000 ----- 1,962,494	5,314,000 ----- 4,931,248	市民の文化活動の成果発表の場の提供及び文化芸術に触れる機会の提供のため、文化祭を31日間24行事開催し、昨年度の8,044人を大きく上回る15,760人の来場者があった。また、10月8日には市民文化会館リニューアル後初の文化祭のこけら落とし公演「とうとうたりり」を市民団体が複数の部会合同で実施し、各部会の相互理解の向上を図ることができた。	開催日数及び行事数	20日間 27行事	31日間 24行事	S	変動なし		
11	次世代を対象としたアウトリーチ事業等	4	0.25	一般	1,180,000 ----- 1,180,000	300,000 ----- 300,000	次世代を担う子どもたちの豊かな創造性、感受性を育むことを目的として、市内保育園・幼稚園の5歳児クラスを対象に美術鑑賞の出張講座を7園10クラスで実施し、園児200人が参加した。参加した園の満足度は100%であり、次年度の参加を希望する園も多く、高い評価を受けることができた。	鑑賞出張講座の実施クラス数	20クラス	10クラス	A	変動なし		
12	美術品収集事業	4	0.27	一般	1,405,000 ----- 1,329,010	337,000 ----- 93,556	美術館の独自性を発揮するため、茅ヶ崎市にゆかりの深い美術家の作品を収集している。30年度は48点の寄贈を受け、美術館のさらなるコレクションの充実に繋がった。	美術品審査委員会の開催回数	2回	2回	S	変動なし		
13	文化活動推進及び支援事業	1	0.24	一般	650,000 ----- 369,897	1,186,000 ----- 1,063,124	文化を核として本市のまちづくりを総合的に推進するとともに、各種団体等を支援した。毎年5年生を対象に実施しているこころの劇場は29年度文化会館の閉館により実施できなかったため、5年生と6年生を対象に実施した。ふれあいプラザコンサートは市役所で2回実施し、多数の来訪者が文化活動に触れるきっかけとなり文化活動推進に繋がった。	文化活動支援事業の開催回数	4回	4回	S	変動なし		

14	市史編さん事業	6	1.19	一般	7,799,000	7,827,000	シリーズで実施している市史講座とともに、初の事業として小・中学生や初心者を対象とした講座を実施したほか、市史ブックレット及びヒストリアの新作を刊行した。さらに、本市にゆかりの人物紹介を広報紙で連載したところ、反響も大きく、次年度も継続することになるなど、市民の市史への関心が着実に進展した。	市史講座の開催	25回	9回	A	変動なし		
					7,151,614	7,083,144								
15	子育て世代のための生涯学習交流サロン運営事業	2	0.08	一般	547,000	600,000	子育て世代に対し、学びの場や仲間作りの場を提供し、育児における孤立状況の改善を図るとともに、地域や社会との交流、自らが地域等の担い手となる意識の醸成を図るため、年12回のサロンを開催した。全体で140組の参加があり、参加者が講座の講師や地域活動へ参画するきっかけの場となった。	サロン実施回数	年12回	年12回	S	変動なし		
					547,000	599,999								
16	ハマミーナ総合案内管理運営業務	3	0.11	一般	60,702,000	65,584,000	ハマミーナまなびプラザの体育室・調理室の利用率は前年より増加し、使用料は目標値を上回った。	ハマミーナまなびプラザ使用料	4,200千円	4,697千円	S	変動なし		
					60,507,739	60,763,094								
17	市制70周年茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業	4	0.12	一般	716,000	226,000	行政提案型協働推進事業の実施2年目。市ゆかりのアーティストが施設の廃材を使用して製作したフォトブースを兼ねたアート作品を10月1日のリニューアルオープンから約2か月間市民文化会館に展示した。SNS等で文化会館の開館だけでなく、市ゆかりのアーティストも周知することができた。	アーティスト参加者数	7人	10人	S	変動なし		
					716,000	226,000								
合計					H30予算(円)	4,416,036,000								
					H30決算(円)	4,384,452,449								

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課はいは一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)

文化生涯学習課の第4次実施計画における政策的事業の数は17事業であり、これらの事業の評価結果は、「S」評価が14事業、「A」評価が2事業、「B」評価が1事業となった。

「S」評価事業のうち、No.6「茅ヶ崎市美術館指定管理に関する事業」では、開館20周年を記念して美術館独自の企画として開催した「小原古邨展」が多くのメディアで取り上げられるとともに、館内での撮影を許可したことで来館者によるSNSでも広く拡散されるなど大きな反響を呼び、開館以来最多の来館者数となった。また、No.9「生涯学習機会の提供」については、自主企画講座の開催回数が目標80回に対し実績は91回となったが、まなびの市民講師の中には自主企画講座を開催したことがない講師もいるため、今後は講師が自主企画講座を実施するための支援・講師間の情報共有をする場を設ける等の支援を実施していく。

「A」評価事業のうち、No.11「次世代を対象としたアウトリーチ事業等」は、予算上限の7園10クラスでの実施となったが、21園27クラスからの申込みがあったことから、これまでの事業展開によりニーズは増えているものと認識している。また、No.14「市史編さん事業」については、市史講座の開催回数が目標25回であったところ9回となった。想定していた市史編さん担当職員による市民まなび講座の開設ができなかったことが減少の理由である。市史編集員講師による市史講座は、幅広い年齢層に市史を広めていくことを目的として新たに小中学生や初心者を対象とした講座も実施したところ、受講者も多かったことから全体としてはA評価とした。

「B」評価としたNo.7「旧南湖院第一病舎の活用に関する事業」については、30年度は腐朽箇所の修繕を行ったものの、劣化が激しく必要最低限の修繕に留まらざるを得なかったが、今後同施設を積極的に利活用していくための大規模改修を検討していく。

施策目標の達成状況については、「市民講師登録数」は、目標値70人に対し実績102人となり目標値を上回った。これは29年度に引き続き31年2月に「まなびの市民講師WEEK」を実施し、ふれあいプラザにてまなびの市民講師の発表や活動紹介をする場を設けるなど、事業周知の強化を図ったことにより成果が上がったものと認識している。「文化芸術事業参加者数」は、目標値を下回った。これは市民文化会館が大規模改修工事により9月末まで閉館していたため、来館者数が下半期のみのカウントとなったことによるものである。しかしながら、閉館中も市内各所へのお出かけ公演、開館前日には茅ヶ崎駅周辺等での「まちかどコンサート」、10月1日のリニューアルオープン後は「リニューアル・オープニングウィーク」と称し連日多彩な事業を行ったほか、こけらおとしのオーケストラの演奏会では市民を無料招待するなど、指定管理者が充実した自主事業を展開した。その結果、10月1日以降の文化会館の来館者数240,547人を単純に2倍した数にリニューアルオープン前のアウトリーチ事業等の参加者数を加えた本施策目標の推定実績値は551,098人となることから、令和2年度の目標達成は見込めると認識している。

時間外勤務においては、29年度に比較して総時間数1,173時間、＝1人当たり月平均で6.4時間増加しており、主な要因は市民文化会館のリニューアルオープンに向けた業務が挙げられる。その他、全体的に業務量が増加傾向ではあるが、今後も働き方の見直しを継続することで、業務負担の軽減とワークライフバランスの促進を図っていく。また、各事業を円滑に遂行するため、今後も進捗状況を的確に把握するとともに関係機関との密な連携・協力を進めていく。

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は－)	事務改善の内容
2	茅ヶ崎ゆかりの人物館運営事業	目標値は概ね達成しており、企画展も年々充実してきているとの評価を受けているが、さらなる有料来館者増に向けた仕掛けと、企画展の内容から茅ヶ崎ゆかりの人物についてより深く知ってもらえるよう、新たに専門性を持つ職員によるギャラリートークを企画し、定期的な開催を行う。

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は－)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
-	-	いずれも事業も施策目標達成に向け必要であるため、休・廃止は困難である。
-	-	-

6 働きかたの見直しにおける取り組み結果(28-30年度の3か年の取り組みの結果、得られた生産性向上などの成果)

取り組みの結果
文化生涯学習課では、イベントや所管施設の管理等、突発的な対応もあり、時間外勤務が増加傾向にある中で「業務の見える化」を意識した働き方の見直しの取り組みを進めてきた。具体的には、課内に内在する課題や職員間の情報共有を目的とした課内ミーティングを原則として月に1回開催するとともに、少人数のミーティングを密に行うことで、担当間の情報共有を図った。ミーティングはスタンディング形式で行うなど、ミーティングが短時間で終わるよう工夫を行った。また、各職員がスケジューラーにその日に行う業務を記入することで業務量の見える化を図った。こうした取り組みにより、31年1月に実施されたマネジメント点検では、「業務改善提案の機会確保」や「新しいことにチャレンジする機会の提供」、「全員参加の職場運営の機運」などの項目が全庁平均を上回ったことから、担当者が問題提起し、解決に向け課員全員が協力していく環境が整ってきたと考えている。業務量が增大している中、結果的に時間外勤務時間数を減らすことができなかったが、この3年間で職員の働き方に対する意識は確実に変化したと言える。